

# 1990年以來の日経平均3万円台

## ポイント① 高まる経済正常化への期待

2月15日、日経平均株価終値は前営業日比564円高の30,084円となり、1990年8月以來、約30年半ぶりに3万円の大台を回復しました。欧米諸国などで新型コロナウイルスに対するワクチン接種が徐々に進んでいることなどから経済正常化への期待が高まり、世界的にも株価は上昇しています。日本では、15日発表の2020年10-12月期の実質GDP（国内総生産）は前期比年率換算値（前期比を1年あたりの変化率に換算したもの）で+12.7%と事前の市場予想を上回る伸びとなり、15日の大幅な株価上昇の一因となったようです。新型コロナウイルス感染による経済変化への企業の対応が進み、企業利益回復への期待も高まっています。

## ポイント② 大きく変化した上位銘柄の顔ぶれ

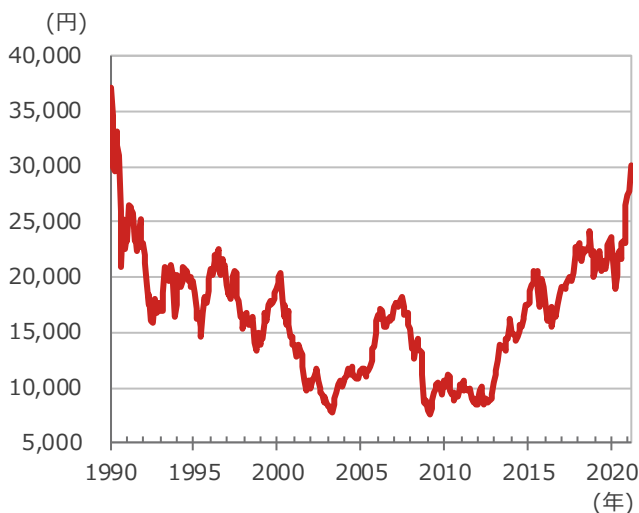
日経平均株価は30年以上前の水準に戻りましたが、株式市場の姿は30年前と大きく変わりました。1990年当時、日本株の時価総額上位10銘柄中、過半は銀行株でした。現在は銀行株は1つもなく、ソフトバンクグループのように1990年当時は上場していなかった企業が含まれています。当時も現在も10位以内であるのは、トヨタとNTTのみです。

## ポイント③ ワクチン接種の進展に注目

欧米諸国に比べて日本のワクチン接種は遅れていましたが、2月17日には医療従事者への接種が始まり、今後遅れを取り戻せるかどうか、日経平均3万円台が定着するかという点でも注目されます。ただ、ワクチン接種が進んで経済が正常化しても、一旦変化した需要構造は完全には元に戻らず、むしろ地球温暖化対策などによってさらなる構造変化が促されそうです。経済の構造変化と共に株式市場でも中心となる業種や銘柄が今後も変わってゆくでしょう。

図1：日経平均株価

期間：1990年1月～2021年2月（15日）、月次

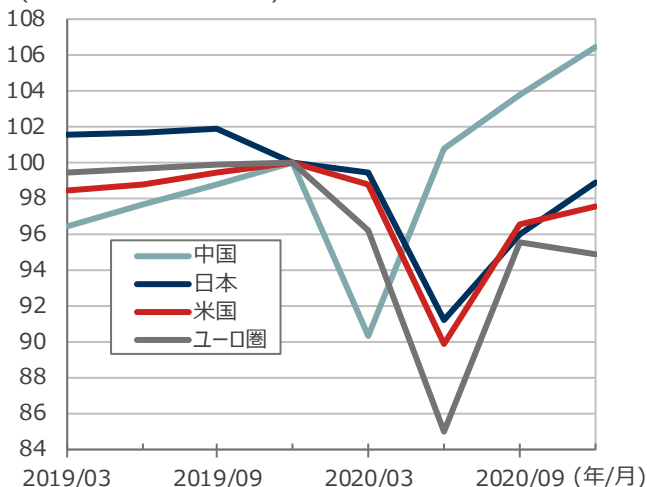


（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：日米欧中の実質GDP

期間：2019年1-3月期～2020年10-12月期、四半期

（2019年10-12月期=100）



（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

### 重要 イベント

- 2月16日 日本3次産業活動指数（12月）
- 2月17日 日本機械受注（12月）、日本貿易統計（1月）
- 2月26日 日本小売売上高、日本鉱工業生産指数（1月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。